

V 研究内容

〈各学年の授業実践〉

I 4 学年の授業実践

第4学年 体育科学習指導案

平成30年6月13日（水）第5校時

4年2組 児童27名

授業者 大槻 清子

岡崎 隆太

見崎 まり

今日も元気に、FUN-PLAY-SPORTS

1 単元名 多様な動きをつくる運動（体づくり運動）

2 単元の目標

（1）知識及び運動

多様な動きをつくる運動を取り入れ、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに体の基本的な動きができるようにする。

（2）思考力、判断力、表現力等

体づくりのための運動の行い方を知り、友だちのよい動きを見つけたり自分の運動に取り入れたりして動きを組み合わせることができるようになる。

（3）学びに向かう力、人間性等

運動に進んで取り組み、きまりを守って仲良く活動し、場や用具の安全に気を付けて最後までやり遂げようとする。

3 授業づくりの構想

〈運動の特性〉

体づくり運動は、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことにより、自分や仲間の体の状態に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりする「体ほぐしの運動」と体の基本的な動きを総合的に身に付けるための「多様な動きをつくる運動（遊び）」から構成されている。

多様な動きをつくる運動では、（ア）体のバランスをとる運動（イ）体を移動する運動（ウ）用具を操作する運動（エ）力試しの運動を意図的に授業で取り上げ、子どもたちに経験させることで、体の基本的な動きをバランスよく身に付けることをねらいとしている。

中学年では『動きのレパートリーを増やすこと』に加え、『基本的な動きを組み合わせる運動』を取り入れることで、低学年より基本的な動きがスムーズにできるなど、『動きが高まり（洗練化）』もポイントになっている。

〈児童の実態〉

○ 男子13名 女子14名 計27名

○ 態度、意識面〈事前アンケート〉

項目	全体評価	評点
楽しむ	13.51851852	5
わかる	11.44444444	4
できる	10.59259259	2
まもる	13.88888889	5
合計	49.44444	4

○本学級の児童は体育の授業に意欲的に取り組み、休み時間は、運動場に出て友だちと運動に親しむ姿が多く見られる。

しかし、多様な運動経験には差があり、基本的な動きが十分身につけていない児童や体育の授業に苦手意識をもつ児童もいる。

○昨年は各運動をする（単元）ごとにそれに応じた動きづくりを取り入れてきている。ハードルであれば足の動きや走の基本的なことなど

○体育授業に対しての愛好度は低くないが、運動技能についての自信のなさが目立つ。そのため、相互にかかわりながら動きを高め合う学びをつくっていききたい。

〈めざす子どもの姿〉 運動を楽しみ、仲間とかかわりながら、動きを広げ高めていく子ども

4 主題に迫る具体的な手立て

(1) 魅力ある教材の工夫（単元構成、場、教具、評価）

体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、様々な運動遊びを経験することで、「運動すると気持ちいい」「体を動かすことが楽しい」と感じられる授業を展開していく。バランス、移動、用具操作、力試しの動きのレパートリーを増やし、一つ一つの動きを繰り返すことにより、動きの質を高めていくために本単元では、基本的に「できないことができるようになること」を課題としながらも、やさしい運動から次第に難しい運動へとスモールステップの課題を設定し、これらの運動に子どもたち自らが挑戦的・発展的に取り組んでいくようにする。単元を通じて学習活動前半部分で五種目歩走運動を導入する。運動量が多く、腕支持の力や跳力はもちろん、バランス能力、リズム能力、変換能力、連結能力・・・といったコーディネーション能力の育成にも効果があり、多様な動きを高めていく上で継続的に取り組みながら自己記録の向上を目指したい。後半の活動では4つのカテゴリー（バランス・移動・用具操作・力試し）の運動をいくつかのスモールステップの運動課題を仕組むコーナーを設定する。それぞれの動きを高めるための工夫を考えさせながら取り組み、バランスのとれた動きづくりが経験できるようにする。

また、友達と協力し、交流することで、教え合いや学び合い、励まし合いができるようにそれぞれの運動課題に個人からペア、そしてグループへと集団で取り組むようにする。さらに単元の終末には経験した動きを組み合わせるグループで考えた動きをゲーム化、競争化して、仲間と関わりながら「集団的達成の喜び」が味わえるようにしたい。

(2) 運動の特性に応じた動きづくり

「多様な動きをつくる運動」は、体力を高めることを直接の目的として行うのではなく、楽しく運動しながら、体の基本的な動きを総合的に身に付けることをねらいとしている。そうした学習をしていくことで、結果として体力が高まっていくことを想定している。

多様な動きを経験することで動きのレパートリーを増やしたり、いくつかの動きを組み合わせた動きを経験したりすることで、動きの質を高めていきたい。

また、特定の運動を重点的に行うのではなく、4つの運動をバランスよく行いながら、体の基本的な動きを身に付けることができるように指導していきたい。

(3) 言語活動

単元を通じて取り上げる運動課題の動きのポイントについては、児童の動きのよさを取り上げて、思考をさせながら全体共有していく。また、「いいねタイム」では、動きや学び方の良さを相互評価し合うことで学級全体としてより良い学びの価値づけを図っていく。

5 単元の評価規準

	知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
内容のまとめりの評価規準	・ 多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせた動きができる。	・ 多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。	・ 多様な動きをつくる運動に進んで取り組もうとしている。 ・ 用具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って運動をしようとしている。 ・ 友達と協力して、用具の準備や片づけをしようとしている。 ・ 運動する場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。
	知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等

学習活動に即した評価規準	① 姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きが安定してできる。 ② 姿勢や方向を変えて、体を移動する動きがなめらかにできる。 ③ 用具を操作し、用具に合わせた動きが調子よくできる。 ④ 腕の引き方や押し方 重心のかけ方などを変えて 力試しの動きができる。 ⑤ 基本的な動きを工夫したり組み合わせたりした動きができる。	① 多様な動きをつくる運動の動き方のコツを知っている。 ② 友達の良い動き方を見付け自分の動きに取り入れている。 ③ 基本的な動きの工夫を考えている。 ④ 基本的な動きの組み合わせを選んでいる。	① 体づくり運動に進んで取り組もうとしている。 ② 用具の使い方や運動の行い方のきまりを守ろうとしている。 ③ 友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ④ 運動をする場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。

6 指導と評価の計画

時間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準		
		知識及び運動	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
1	・体ほぐし運動（鬼ごっこ，ケンケンやクマ歩き等） ・オリエンテーション 単元のめあてと確認，本時のめあてと確認（多様の意味） 移動・・・五種目歩走 バランス・・・平均台渡り	②		① ② ③ ④
2 ～ 5	めざせ！自己新記録！！ 2・3・4 ○移動・・・五種目走 1本橋を渡ろう！UFOボートでジャンプ！ 2 ○バランス・・・渡り方の働きを工夫する。 ・UFOボートに乗ってジャンプする。	①	②	
	色々なすもうと，ろく木登り！ 3 ○力試し・・・色々なすもうをペアやグループで楽しむ。 ・ろく木をしっかりとにぎり，登ったりぶら下がったりして動きを工夫する。	④		
	ボール，リング，なわであそぼう！ 4・5 ○用具操作・・・ボールを投げる・ころがす・キャッチするタイミングをつかむ。 ・リングをまわしたり，くぐったりする動きを工夫する。 ・色々ななわとびに挑戦する。	③		
			②	
6	動きを工夫して楽しもう！！ 6 動きの工夫・・・4つの運動をふり返り活用しながら友だちと一緒に動く。 ・グループで工夫した動きに挑戦する。		③	
7 ・ 8	色々な動きを組み合わせで楽しもう！！ 7・8 組み合わせ・・・これまでに経験した4つの動きを 2 つ以上組み合わせでできる動きをグループで考える。 ・グループで考えた動きの組み合わせを紹介する。	⑤	④	
			①	

7 本時の学習（6／8）

（1） 本時の目標

・体のバランスや移動、用具操作などを取り入れ、それらを工夫した動きをグループ内に伝えることができる。【A 規準】

・体のバランスや移動、用具操作などを取り入れ、それらを工夫した動きができる。

【B 規準】

（2） 準備物

カセットデッキ・黒板・教本・用具（平均台・UFOボード・マット・リング・ボール・なわ等）

（3） 展開

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・評価（☆）
1 心と身体のスイッチ ON！ ○主運動につながる体ほぐし ・個人→ペア→グループ ・4つの動きを織り交ぜながら ○5種目走をする。 2 本時のめあてを確認する。	・ 交流と感覚づくりを主においた体ほぐしで授業をスタートすることで心と身体のスイッチオンを図る。 ・ 4つの動きとつながりのある基礎的な動きを行うことで後の活動にスムーズに移行できるようにする。 ☆自己記録向上を意識させ、カウントする声を出している。
動きを工夫して楽しもう！	
3 多様な動きに取り組み、4つの運動を繰り返す。 ・ ペアでこれまで経験した動きを繰り返す。 4 グループで動きを工夫したり、新しい動きに挑戦したりする。	・ これまでに経験した動きをコーナーを回りながら繰り返す。 ・ 安全に気をつけて行わせる。 ・ 工夫の視点を与えることで新しい動きをグループで考えやすいようにする。 ・ 仲間と動きを合わせたり、まねたり、声がけしたりしながら運動させる。 ・ 4つの動きづくりのコーナーに分かれて、ローテーションしながら（BGM）動きの工夫を考えさせる。 ・ 仲間が新しい動きや工夫をするところを見せ合ったり教えあったりする場を作らせる。 ☆基本的な動きの工夫を考えている。 〈活動の場〉 移動 力試し 平均台 バランス マット UFOボード 用具操作 なわ ボール リング
5 学習のまとめ ・ いいねタイム ・ グループで考えた動きを紹介する。	・ 楽しかったこと、できたこと、友だちの良さなどの感想や、発表・自己評価をさせ、学び方のよさを認め合う。 ☆すすんで意見や考えを出している。

授業の視点・・・

- ・ 楽しくグループで動きを工夫したり、新しい動きに挑戦したりできたか。
- ・ 工夫した動きをグループの仲間に伝えることができたか。

8 授業後の話し合い

- ・集合も早く活動の流れを捉え、次への動きにも繋げ活動量も多く取れテンポ良くスムーズに動いていた。
- ・子供への働きかけ（ほめる）子供同士の良さを認め合う（いいね、グー）等、授業の入りから雰囲気も良かった。
- ・仲間の良いモデルを止めて見せ、良い所を周りの児童に言わせるという場（共有）があった。
- ・配慮を要する児童（クローバー学級等）との関わりに、クラス全体の温かい雰囲気があり喜んだり楽しんだりしながら取り組んでいた。（輪になり話し合ったり工夫したりしたことを認めそれに挑戦する姿等）
- ・音楽の効果やシールで認めたり赤白帽で定着度を図ったりする等の細かな評価も良かった。
- ・T1・T2の立ち位置や声かけの度合いが上手くできていた。
- ・子どもから進んで工夫が出れば、次の組み合わせに繋げる手立てとなるのではないかな？
- ・ペアで行っていた工夫をグループにも広めることでさらに良い仲間作りができ、体育好きな十津っ子になるのではないかな？
- ・今日のめあてに対するふり返りをする事で学びの共有化ができ、次の活動へ繋がっていくのではないかな？

II 研究の考察

(1) 魅力ある教材の工夫（単元構成，場，教具，評価）

子供たちが自ら挑戦し発展的に取り組めるよう、前半の活動に五種目走運動を導入した。それは、運動量が多く腕支持の力や、跳躍力・バランス・リズム変換・連結といった能力向上に効果がある。また、毎回やる事で出来る回数が向上していくので目標を持って行う事が出来る。後半の活動は、バランス・移動・用具操作・力試しといった体づくり運動で求められる運動内容課題を仕組むことで、色々な工夫に繋がったりする面白さを味わうことが出来たように思う。



このような活動を行う中で、友達と協力し教え合い学び合い励まし合えたことで、個人からペア・グループへと楽しく活動できていたのではないだろうか。教材を組み立てる時も、教具の使い方や場の設定等にも動きの質を高められるよう意識した配置を考えながら、伸び伸びと動ける環境作りを心がけた。そして、工夫している場やその機会を逃さず評価する（赤白帽子・シール等）ことへも目を向けることも出来たように感じる。

(2) 運動の特性に応じた動きづくり動きを考えて

「多様な動きをつくる運動」は、体力を高めることを直接目的としていない。学習を通して実際やっていくうちに普段使わない体の部分を動かす経験を重ね、その動きの経験の中で「面白い・やってみたい」というような意欲が沸き、最終的に色々な運動に必要な体力に繋がっていったように思う。その上で、新しい動きをたくさん見つけ、組み合わせへと発展させながら質を高めていくことにも目を向けられたようだ。しかし、動きの組み合わせを考えるのには、多くの動きを知りさらに経験を積むことが必要ではないだろうか。児童の実態から、運動経験が少ないのでなかなか連結した動きは出てきにくかったように感じた。



(3) 言語活動



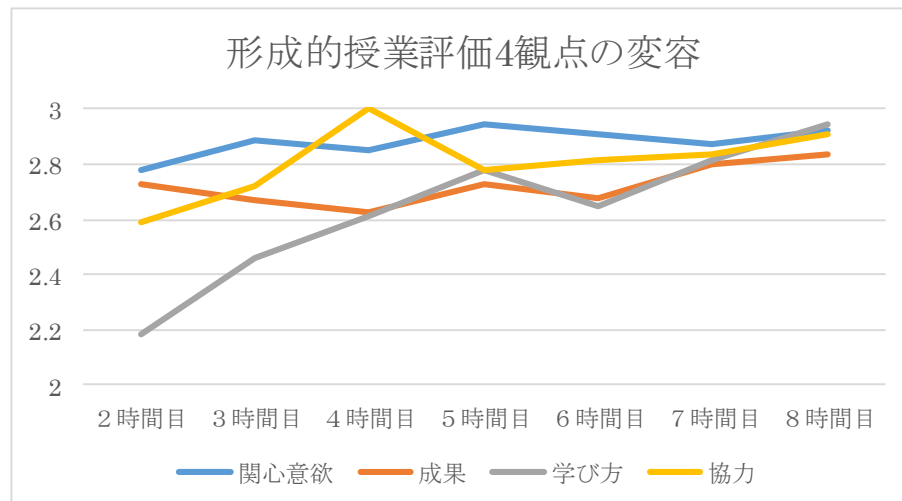
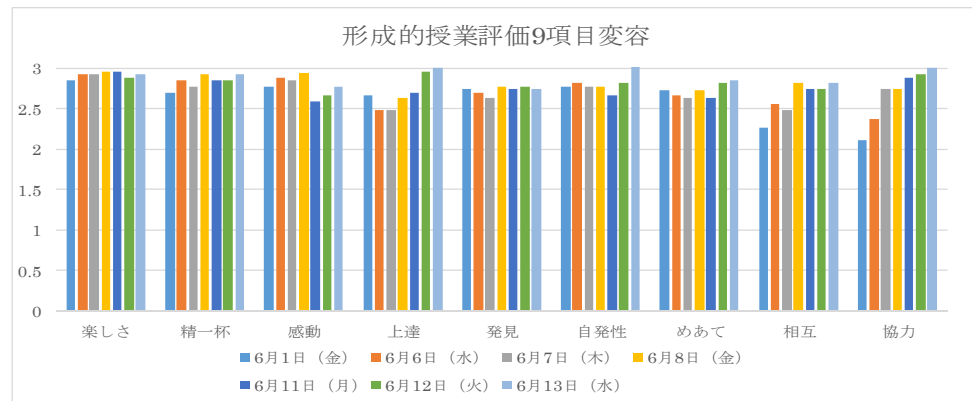
毎時間、児童の活動中つぶやいたり仲間のよさに気づいたりした場面を見逃さず「いいねタイム」をとったりした。そして、動き方や学び方の良さを確認し合う時「何がどう良かったのか」とか、「この動きに付け加えて」などといった言葉で伝えながら学級全体で価値づけていくことを意識させようとした。そうすることで、一人ひとりの意識から集団への高まりへと言語を通じて少しずつやる気の雰囲気が出てきたように思う。

(4) 子どもの変容について

毎授業後にとった、形式的授業評価4観点の変容を見てみると学び方の向上が著しい。これは、子供達が何をめあてにどのような動きをするのか、動きが出来ることの楽しさや面白さを学んで、次へのステップは何だろうという事を思考しだした表れではないかと思う。また、9項目のうち「仲間との協力」も同様に大きく向

上が見られた。このことから、お互いの良さを認め合う事で自分にも共有でき体で実感出来たからではないだろうか。用具を使って工夫した動きを自分で考えたり、友達を見たりして「自分もやってみよう」といった授業展開が児童にとって協力場面を生んだと思われる。

授業に楽しみを持って臨んだり、一生懸命に意欲的に取り組んだりする姿勢は高評価であった。しかし、体づくり運動他領域のように「できた」といった達成感を、達成感を味わわず領域ではなく、動きを工夫したりバリエーションを増やしたりして、他領域の運動にも役立ち体力を高める方法の理解と高めようとする態度を育てることがねらいである。だから、出来ている・伸びているといった気持ちの変容はあまり変化がなかった。



(5) 成果と課題

研究主題「人とのかかわりを深め共に伸びる子どもを育てる」を念頭に授業の視点も捉えながら計画し授業展開をしたことで、総合的に見て子供たちは意欲的に取り組み「いつでも・どこでも・だれとでも」を意識した姿があった。仲間と関わる事や協力する事で、話を聞き思考していく事に繋がっていることに気づく良い機会にもなった。これは、学級経営においても重要な位置にありこの1年間ずっと重きを置いてきたことでもある。めあてを持ち手立てを知って、やり方の方法を試行錯誤する事で理解しながら動いていくことが、頭と体ではじめて出来た喜びに繋がっていけるものだと思う。子供たちの中に、学ぶ意欲が沸いてきていることから、そう考えても良いのではないだろうか。また、評価（ほめる・いいね・シール等）すること、そのタイミングや授業のテンポにおいても間を逃さずにした事も良かった。T1、T2との掛け合いがあった事等もプラス要因だと感じる。

学習指導要領で、思考力・判断力・表現力を高める事とある。今回の授業では、工夫が課題となっていた。進んで子どもが出来るところまでになれば次の組み合わせに繋がられるのではないかと。めあてに対するふり返りを行うことで、学びの共有化が出来次の活動に入れるのではないかと。ペアで行っていった工夫を、グループにも広めることでさらに仲間作りが出来体育好きな十津っ子になるのではないかと。

運動量を要する体育活動では、思考を促す学習に時間をとることで活動が減る可能性も出てくる。そこを、どう授業の中で組み立てていくかが課題だ。そのためにも、活動の導入から展開し単元ごとの目標や評価・視点などを明確にしながら授業計画を立てていく必要がある。動き作りという内容そのものが、他の運動向上への基礎となるものなのでおおくの動きを理解させ動かす事が大切である。

人との関わりを深めながら、伸びのびと活動出来る体育授業を目指して今後も研究しながら進めていかなくてはならないと思う。